

絵本と仲良くなろう



睡眠や食事が子どもたちの身体を育むように、発達にあったよい本は子どもの心を育みます。一日のほんのひとつき、忙しい手を休めて、子どもたちといっしょに本を楽しんでみませんか？それは子どもたちだけでなく、大人にとっても心安らく幸せなひとときです。そして、その時間のあたたかさは、ずっとずっと先の子どもの未来へとつながっていきます。

絵本の持つ魔法の力



「家読」できずなが深まる♡

「あなたを大切に思っているよ」という気持ちで読み聞かせをすると、子どもにそれが伝わります。絵本の読み聞かせで子どもに愛情を伝えることができます。

「家読」は、家族で本を読んだり、本について話したりすること。大好きなおうちの人と一緒に楽しんだ本の時間は、幸せな記憶として心の中に残っていきます。家読にルールはありません。本を通じた親子のコミュニケーションを楽しんでください。

言葉がふえる♡

絵本を読んでいると子どもが初めて耳にする言葉が出てきます。子どもは、わからない言葉でもお話の一場面の中で感じとり、自分のものにしていきます。

言葉は、考えや思いを伝えるための大切な手段です。言葉が豊かになると、考えや思いも豊かになります。小さな子どもは、気持ちを言葉にできなくて伝えられず、イライラすることもありますが、本を通じて使いこなせる言葉が増えていくと、自分の気持ちを表現できる子どもになります。



絵本の中で体験できる♡

絵本を開いた瞬間、世界は無限に広がります。おうちの居間がお城になったり、子ども部屋のベッドが空の雲に早変わりしたり。主人公として王様になったり、動物になったりして、さまざまな体験をします。そうした間接体験をすることで、新しい発見が生まれます。

幼児期に絵本や遊びを通して想像の世界をたっぷり味わうと、豊かな感性が育ち、知識も増えていきます。

読み聞かせは小さい子どもだけのものではありません。いくつになっても安心できる人からの読み聞かせは、気持ちが落ち着き、安心することができます。

読み聞かせに上手下手は関係ありません。ぜひ家族で楽しい時間を過ごしてください。



お気に入りの本を紹介したよ！

11月7日恋野小学校の学校開放時、1年生～3年生を対象に、家庭教育支援チーム「ハステリア」による講座「お気に入りの本をみんなに紹介しよう」が開催されました。

楽しい絵本の読み聞かせが始まるとみんな大盛り上がり。あちこちで笑い声があふれました。その後グループに分かれ、3年生と参観のお母さんがお気に入りの本を持って、面白いところを説明したり、読み聞かせをしてくれたりすると、1、2年生はもちろん、紹介してくれた3年生もうれしそうでした。



子育ては、はいあどばいす

支援チーム員「ちよっちゃん」

こんなことはありませんか？

●同じ本ばかり読んでます(*_*)!!

子どもたちは何度も何度も同じ本を読むことがあります。別の本読もうよ～と思ってしまいます。今その本はその子にとって宝物。宝物に出会えた子どもは幸せですという話をきいて、なるほどなあと思いました。

●本が嫌いみたいです(*_*)!!

お話の本ばかりすすめていませんか？ 図鑑も楽しく美しいです。科学の本では、なぜ、どうしてと興味がわいてきます。その子の好きなジャンルが見つかるといいですね。

●読んでいるのに、ページをめくってしまおうです(*_*)!!

次の絵はどうなっているのかなど興味がわいてきているのです。めくるという楽しさもあります。じっと見つめて進まないときも、もどるときもあります。子どものペースに合わせて読みましょう。文が読み切れなくてもいいのです。子どもは絵本と遊んでいるのですから。



家読タイムは5分間でもOK。CMは15秒であんなにメッセージを伝えてきます。ぎゅっと濃い5分間を続けてみましょう♡

うちの子がシンデレラ、おやゆび姫、ねむり姫…姫物語のとりこになった時期、長かったなあ～

